



今月のお知らせ

感染症の流行状況によっては、事業を変更する場合があります。ご了承ください。

ペン習字教室

日時：8月19日（月）13時30分～
場所：さわやか人権文化センター
内容：「絵手紙」「実用的な書」「石への描画（ストーンアート）」など
～いつでも、どこでも、誰でも、楽しめること～



さわやかサロン

日時：8月22日（木）13時30分～
場所：さわやか人権文化センター
内容：みんなで手わやく
簡単な作品を作りながら
みんなでおしゃべりしましょ！

手話教室

日時：8月28日（水）19時30分～
場所：さわやか人権文化センター
手話で簡単な日常会話、
子どもから大人まで
楽しく学びましょう。



みんなの楽級

日時：8月30日（金）19時00分～
場所：さわやか人権文化センター
内容：人権学習
「ヤングケアラー問題を考える」
ヤングケアラーは子どもの権利が守られていない可能性があります。
ビデオを観て、この問題を考えます。

第3回倉吉市人権のために学ぶ同和教育講座 病気にかかわる人権

「たかが搬送、されど搬送」 ～自分らしく生きることに寄り添って～

日時：8月31日（土）13時30分～15時00分
場所：倉吉交流プラザ 視聴覚ホール
講師：上野 泰葉 さん（くらし民間救急ぬのこ代表）

インターネット配信について

YouTube 配信を行います。（ライブ配信のみ）

配信は事前申込みが必要です。（申込み 8月27日まで） お問い合わせ：倉吉市人権政策課 ☎ 22-8130

事前申込不要

鳥取県中部初の民間救急患者等搬送事業者の認定を受け、活動をされています。

民間救急事業を始められた理由、利用者や家族に寄り添い自分らしく生きる権利についてのお話をさせていただきます。

困りごとはありませんか？ 人権が侵害されていませんか？

悩みごと・生活に困っていることがありましたら、どんなことでも、1人で抱えこまずにご相談ください。

倉吉市 人権政策課
さわやか人権文化センター

差別落書きや差別発言などに遭遇しましたら、倉吉市人権政策課もしくは人権文化センターにご相談ください。

電話 22-8130
電話/fax 28-2017

さわやか人権文化センターだより



センターだより「さわやか」に関するご意見・ご要望をおよせください。

2024年8月1日発行 No.358

〔発行所〕さわやか人権文化センター

〔所在地〕〒682-0602

倉吉市上米積 1074-1

〔電話兼ファックス〕0858-28-2017

〔メールアドレス〕sawayaka@ncn-k.net

参加者一人ひとりが

自分たちの思いと言葉で学習と実践を深め合う

部落解放研究第52回倉吉市集会

日時：2024年8月18日（日）10時00分～15時00分

会場：エースパック未来中心、倉吉交流プラザ

研究主題：お互いを認め合い、安心して暮らせる人権尊重のまちづくりをめざして

～多様な人権課題を通じて、人々がつながり合うことの大切さをあらためて考える～

内容

（1）開会行事（10:00～10:30）

（2）講演会（10:30～12:00）

演題 家族のなかの人権問題を考える

DV・虐待・モラルハラスメントをとおして

講師 中村 正 さん

（立命館大学特任教授／一般社団法人UNLEARN代表理事）

（3）分科会（13:00～15:00）

分科会	分野	内容	会場
1	地域社会と人権	地域社会の中でつながりを大切にしてきた様々な活動について学び、今後の取り組みについて話し合う。	未来中心 セミナールーム3
2	子どもの人権	子ども食堂やその他の支援などについて学び、今後どう取り組んでいか話し合う。また、子どもに寄り添うための取り組みについて考える。	倉吉交流プラザ 視聴覚ホール
3	同和問題	各地域の座談会の参加者の固定化や、マンネリ化している地域もある現状を打開するには、どう取り組んでいくか考える。	倉吉交流プラザ 第1研修室
4	障がいのある人 の人権	特別な学級や学校を設けないインクルーシブ教育の推進について学ぶ。就労においても同様の推進を考える。	未来中心 小ホール
5	ハラスメント	ハラスメントの被害者を救済する活動、被害者同士をつなぐ活動について学び、今後どう取り組んでいくか話し合う	未来中心 セミナールーム1・2

お問い合わせ：倉吉市人権政策課（電話 22-8130 FAX22-8230）

中部地区高校解放研リーダー研修会 兼 高校友の会夏期研修会 仲間を引っ張るリーダーとしての自覚を強める

7月20日に中部地区の高校生25人が鳥取市西人権福祉センターを訪問し、地域のフィールドワークと「インターネット上の差別の現状と鳥取ループとの闘い」の講演後、グループに分かれて話し合いを行いました。

フィールドワークでは、「首切り地蔵」や地域の取り組みなどを学習しました。「首切り地蔵」では、「江戸時代に百姓一揆などの指導者が民衆の面前で処刑された。被差別部落の人々に刑場づくりや後片付け、死者の村送りなどをさせることにより、民衆の怒りを集中させ、偏見や差別心を増長させた。地区の人々は処刑される人を見殺しにするしかない立場を悲しみ、せめて死者の霊を祀ろうとこの地蔵様を造った」など、地域住民の苦しみや差別に抗う取り組みを学びました。

午後からの講演で、「現在、インターネットを使った差別や誹謗中傷が後を絶たない。鳥取ループもまたインターネットを悪用した差別行為を繰り返している。鳥取県内では『差別禁止法』及び『人権侵害救済法』の早期制定を求める署名活動を法務大臣に提出。2016年12月に部落差別解消推進法が成立・施行。現在も裁判を通して鳥取ループとの闘いを続けている」と、インターネットの差別情報が現実社会の差別行為につながるなど、差別の現状について学びました。

その後の話し合いでは、フィールドワークで感じたことや「ネットやスマホを使って自分の個人情報さらされたら」「自分を誹謗中傷する書き込みがあったら」など、誰でも起こる可能性のある行為について意見を出し合いました。



八東解放文化祭へ 視察研修に行ってきました！

7月21日(日)、さわやか人権文化センター事業「みんなの楽級」で八頭町の八東地区解放文化祭へ視察研修に出かけました。

8:30にさわやか人権文化センターを出発し、9:45頃会場の八頭町中央人権啓発センターに到着。やずっ子学習会（八東地区で行われる学習会）の取組発表等を聞いたのち、地域の方の作品展示を見て回りました。



作品の感想を話しながら見て回りました♪

どの作品も工夫を凝らしたものばかりで、今後作品を作るにあたって良いアイデアをもらうことができました。

この視察研修で得たものを、12月頃開催予定のさわやか人権文化センターフェスティバルにいかしていきたいと思っています。



青谷かみじち史跡公園
で組紐作り！に大苦戦！

終戦から79年 あの歴史を繰り返さないで！

80年前の日本は戦争の真ただ中でした。この戦争で日本だけでも310万人もの犠牲者が出ています。そのうち民間人は約80万人が空襲などで亡くなりました。日本の兵士の戦死者の半数以上は病気や飢えが原因と推計されています。戦地では栄養失調やマラリア、赤痢など、厳しく苦しい状況に追い込まれていたのです。さらに、日本に侵略された国の人びとも日本軍兵として戦場に送られ、約5万2千人が戦死したとも言われています。

今も世界各地で起きている戦争

世界を見れば、各地で命を奪う戦争・軍事衝突が起き、国際社会における対立や分断がいっそう深まっています。戦争で犠牲になるのは市民・国民です。市民の生活の場所が戦場となり破壊されます。市民を巻き込んだ途方もない戦争が繰り返されています。

今しっかりとやらなければならないこと

80年前の出来事は決して昔の話ではありません。現在を「戦争の姿が鮮明になってきた。平和が遠のいている」と語る人もいます。

私たちは「失われた命、空襲、食糧難などの日常」や「兵士がいかにか過酷な状況を強いられていたか」「日本が侵略した国の人たちの状況」など、戦争は最大の人権侵害であることを広く訴えていかなければなりません。



1945年 沖縄で起こったこと

アメリカ軍は1945年3月末、空襲や海上の軍艦からの砲撃に続き、^{けらま}慶良間諸島に上陸。4月1日には沖縄本島中部の西海岸に上陸しました。この頃から約3ヵ月にわたる戦いが沖縄戦と言われています。

戦争に巻き込まれた住民

沖縄戦は「軍隊と軍隊が戦う」だけではありませんでした。10代前半の子どもを含む住民が戦争に駆り出されたのです。日本軍は沖縄住民を集めて「防衛隊」や「義勇隊」をつくりました。軍隊の訓練も受けず、武器もないまま戦いに参加させられることもありました。10代の学校生徒たちで「学徒隊」もつくられました。学徒隊では「ひめゆり学徒隊」や「鉄血勤皇隊」がよく知られています。



ひめゆりの塔

住民が暮らしていた場所が戦場になり、軍人と武器を持たない住民が混在したまま熾烈な地上戦が続きました。日本軍が南部に追い詰められてからは、アメリカ軍の無差別な攻撃に、軍人も住民も次々と命を奪われていきました。

沖縄戦で亡くなった人

約3ヵ月間の沖縄戦で、アメリカ側は1万2520人。日本側はその15倍、18万8136人が亡くなったとみられています。沖縄県出身の軍人・軍属は2万8228人、一般住民は9万4千人が戦死しています。沖縄県民全体では12万2千人以上、県民の4人に1人の割合となります。

その後の沖縄

アメリカ軍は日本全体を占領し、全国各地に基地をつくりました。1952年にサンフランシスコ講和条約が発効し、日本は独立しましたが、沖縄は切り離され、1972年までアメリカ軍統治下におかれました。その間、日本各地のアメリカ軍基地はどんどん減らされましたが、沖縄では新たに作られたり、広げられたりしました。その結果、日本にあるアメリカ軍基地の7割が沖縄に集中し、いまに至っています。

いまでも地中には、沖縄戦で亡くなった何千もの人の骨が埋まったままです。不発弾も約2千トンが地中に残っていて、戦後何十年もたってから爆発して亡くなった人もいます。